

単
元
名

～あなたや家庭は地域の宝物～

もっとかがやくこれからの私たち

教科書出版社名（東京書籍）

○ 小学校（6）年 教科等（家庭）

○ 「自ら学ぶ子どもの育成」に向けて、この単元で付けたい力

・10年後にはなくなる職業が半分以上あるといわれている中、子どもたちが将来を思い描いたときに「今ある職業の価値」は何かを見出し、将来のことを考える。

○ 学校図書館活用のポイント

・仕事の内容の他に、その仕事に就く人々の想いが書かれた、様々な職業に関する図書資料を準備する。
・公共図書館と連携して、できるだけたくさんの職業に関する本を用意する。

○ 学習の展開（全2時間）

第1次	・自分が、家族の一員としてできることを考える。 ・卒業を控え、進学など、これからは「人生の分岐点」と言われる場面が増えることを知り、自分の将来について考える。
第2次	・AIについて知る。 ・20年後残っている職業を予想する。 ・20年後残っていると考える職業とその理由を、図書資料を根拠に、説得力のある説明文を書く。

【取組みを終えて】

○ 学校図書館を活用した学習における成果と課題

① 成果	・教員の予想以上に児童は図書資料に興味を示し、様々な職業について知ろうと夢中になって読んでいた。 ・児童からは、AI にはない「感情」に注目した意見が多く出た。仕事をする上で人と人とのつながりの大切さを失ってはいけない、という意見が児童から多く出された。
② 課題	・図書資料を準備する際に、公共図書館と連携したが、発行年月日の新しいものをたくさん揃えることが難しかった。
③ 児童の感想・ふりかえり	【児童が予測した 20 年後残っていると考える職業とその理由】 (伝統工芸士) 「1300 年以上も前から演奏されてきた雅楽」など、伝統は人間が守り受け継いでいくものだ考えるから。 (スポーツの指導者) AI になると、人間のような体の動きができないのではないかと。人間だから見ている人を熱狂させるのだと思う。また、コーチの仕事として「さまざまな個性のメンバーが仲のよいところを引き出しあい、チームとして動けると強い。」と、資料に書かれていたので、AI にはそれができないのではないかと考えた。

○ 学校図書館を活用した際に注意した点や学習の中で工夫した点について

・児童は、AI という言葉については、日常にあふれる言葉となってきたがイメージはできていない。そこで、より実感を持たせるために、電車の自動運転に関する新聞記事を提示し、近い将来、今ある職業がなくなる可能性があることを伝えるようにした。 ・資料を引用し、根拠をもとに自分の考えを書くよう指導した。
--